

ART KISS LETTER

TITLE

こわいな！恐怖の美術館

DATE

2021

9.25^土 / 12.5^日

開館時間 10:00-20:00
(展覧会入場は19:30まで)

休館日 火曜日、11.24(水)
*ただし11.23(火・祝)は開館



熊本舞台の100もの

ものがたり

ようこそ、恐怖の美術館へ

恐怖の美術館へ

「こわいな！」展の会場入口に登場しているのは、演劇集団・南無サンダーによるお化け屋敷。
 その内部は迷路状になっており、出口がどこかわからない状態が続きます。異界に集うお化けたちに出会いながら、それがあとどれくらい続くのか、いつ何が起るのか分からずに戸惑い、恐怖と不安は増していきます……。南無サンダーのお化け屋敷とお化けたちの特徴の一つは、その内容にローカリティ(地域性)と流行が取り入れられていること。今回のお化け屋敷では、熊本地震とコロナ禍が重要なモチーフとなっています。
 なお「こわいののは苦手!」という方もご安心ください、このお化け屋敷は「えぞくない(※“怖くない”の博多弁)」ルートで回避して、次の展示会場に進むこともできます。



箱崎地区近隣の銭湯跡「大學湯」でのお化け屋敷内部の様子 アマビエ 2020年



「大學湯」でのお化け屋敷内部の様子 巨大ゴキブリ 2020年



箱崎駅前でのテント公演
「南無サンダーの演劇お化け屋敷」入口
2018年



PROFILE

南無サンダー
 福岡で活動する演劇集団。主宰安部将吾。劇団員小畑佳子。2015年より熊本市主催の「火の国まつり こともおもしろお化け屋敷」の舞台装置制作を担当。今年の夏は、「博多の食と文化の博物館ハクハク」主催「第3回ハクハク夜マルシェ」にてテント公演「南無サンダーの演劇お化け屋敷」を行った。コロナ禍の急激な悪化のなか、万全の対策を打っての実施に応えるように、猛暑のさなか大盛況。2日間で合計240名が参加した。

EVENT

南無サンダーの演劇お化け屋敷

11/14には南無サンダーが来場し、展示会場内で「演劇お化け屋敷」の公演を行います。
 定員=各公演につき1グループ(最大4名まで)。要事前申込・抽選制
 料金=入場無料。ただし高校生以上は要観覧チケット
 公演時間=各回15分程度
 申込方法=当館HPの専用フォームよりお申込ください。締切は10/20です。
 *公演日以外でも、展示会場内ではお化け屋敷自体はご覧いただけます。

こわいのの...!?! 南無サンダーのお化け屋敷



“岩のかたまりに、からだがかすうと吸いこまれる感触。まるで、地面を掘りすんていったこの星のまんなかで、無重力の状態で浮かんでいる、そんな感じ。”
 —48 霊巖洞のおやぶん

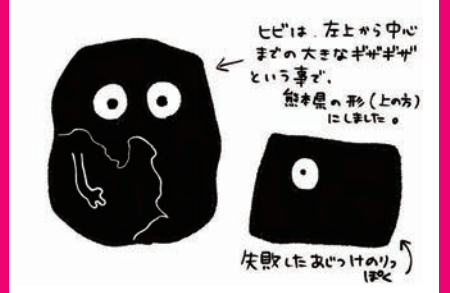


このあたりはもともと、お化け屋敷の入り口と呼ばれていた。たまたま通り前は、かしの海賊が、お化け屋敷の入り口として使われていた。51百貫(石)港灯台



“それは、誰がなんのために作ったかわからない、謎の遺跡だ。”
 —57 トンカラリンについて

▼学生によるキャラクターデザイン

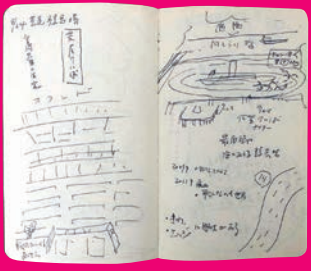


“人形のかたちをした、目に見える音楽だ”
 —30 生人形



100ものがたりアニメーション
 展示会場では、主人公の「くま」と「くろ」が熊本さまざまな土地を訪れるアニメーションが流れています。これは崇城大学の芸術学部デザイン学科の有志学生7名とのコラボレーション・ワークで、作家が提示した「動く地図」というキーワードをきっかけに誕生したものです。

いしいしんじ 取材メモ



作家のいしいしんじは、熊本を舞台にした書き下ろし小説「100ものがたり」を出展しています。この「100ものがたり」の制作にあたり、いしいは3度にわたって熊本を取材訪問し、地元案内人たちに導かれながら県内各地に足を運びました。そしてそれぞれの場所に思い入れを持つ人々の声に耳をすませつつ、今回の物語で取り上げる場所を選んでいきました。その一連の取材は、作家自身がかつて記した「あくまで先方から呼ばれてでかけていく。(…)いま自分の足が接しているこの土地のふるえ、ぬくもり、「声」に感覚をかたむける。」という言葉の思い起こさせるものでした。展示会場内では、99話のものがたりの各話がシート1枚となって設置されています。来場者はそれを手に取って読んでいくのももちろん、そのなかから1枚を持ち帰ることができます。熊本各地から集められた物語を味わいながら、お気に入りの1話を心ゆくまで選んでください。
 *いしいしんじ「その場小説」幻冬舎、2012年、5頁

書籍化
 「100ものがたり」は、本展会期中に書店より書籍として発刊予定です。詳しくは当館HP等で告知いたします。

「百物語」とは?

「百物語」はもともと、夜に集まって順番に怪談を語り合う遊びです。ろうそくを百本立てておいて、一話が終わるごとにそれを一本ずつ消していきます。百話目が終わって真っ暗になったとき化物が現れるとされており、九十九話まで語りやめるのが慣例です。

CAMK
ニュース

第四代館長 日比野克彦館長 就任

2021年6月1日より、日比野克彦氏が熊本市現代美術館の第四代館長に就任しました。

日比野氏は「熊本城築城400年記念 日比野克彦 HIGO BY HIBINO」展(2007年)や、アートとサッカーを融合させた「マッチフラッグ・プロジェクト」(2008年～随時開催)をはじめ、美術館内にとどまらず、中心商店街や熊本の各地をフィールドとした展覧会やプロジェクトを、これまで多数行ってきました。

現在も様々な分野で活躍する日比野氏を、美術館の新たな「キャプテン」として迎え、当館の活動、そして熊本のまちや人の魅力を全国に発信していきます。



新館長メッセージ PRESENTS

「人」が生まれる前から「地球」がありました。
「地球」がなかったら「人」は、きっといませんでした。
「地球」との関わり合いの中から「人」が生まれ・・・やがて「人」は「地球」から「感情」という贈り物を受けました。
「人」は「地球」からもらった「感情」を
「人」と「人」の間でもやりとりするようになり、そのことにより、自分が生きていることの実感が得られることを体験から学びました。
「社会」の中にある人が作り出したすべてのものは、
「人」と「人」の間でのやりとりから生まれています。
(例えば・・・喜びを伝えたい、怒りを無くしたい、哀しみを癒したい、楽しみたい)
「社会」と「感情」は繋がっています。
「感情」が生み出しているのが「社会」なのです。

芸術(アート)とは何か？
芸術は「人」が作り出したものではなく、
「人」のひとりひとりの多様な「感情」の中にあるものです。
だから「感情」を動かすには芸術が役にたつのです。
つまり「感情」と繋がっている「社会」を動かす時には
「芸術」が機能しているような気がします。
ひとりひとりが持っている芸術の力が
「感情」を動かし、「人」を動かし、
そして「社会」が未来に動いて行くのだと思います。

熊本市現代美術館は、人間ひとりひとりのアートの力が社会を動かしていく方法を提案、実践しながら、市民と検証をしつつ、現代社会に貢献していきたいと考えています。

熊本市現代美術館館長 日比野克彦
2021年7月31日

PROFILE
プロフィール

アーティスト。1958年岐阜県生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科修士課程デザイン専攻修了。
大学在学中に段ボールを用いた作品で注目を浴び、国内外で個展・グループ展を多数開催する他、舞台美術、パブリックアートなど、多岐にわたる分野で活動。近年は、各地で一般参加者とその地域の特性や関係性、人々の違いを生かしたアートプロジェクトやワークショップを数多く行っている。



熊本でのこれまでのプロジェクト(一部)
1)「日比野克彦 HIGO BY HIBINO」展 2007年
2)「アジア代表日本 熊本復興応援マッチフラッグ」2016年
3)「パブルラップ」展関連企画
「日比野克彦 公開制作DEPARTMENT STREET PAINTING」2018年

熊本市現代美術館

Contemporary Art Museum, Kumamoto

ART KISS LETTER Vol.100(2021年10月) [次号は2022年1月発行予定]
編集：佐々木玄太郎 富澤治子 デザイン：apuaroot
印刷：シモダ印刷 発行：熊本市現代美術館 www.camk.jp
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 Tel 096-278-7500

日本郵政グループ
熊本ビル

上通
熊本市現代美術館
(びぶれす熊日会館3F)

通町筋
熊本城・市役所前

下通
鶴屋

水通町

[来館者の皆さまへのお願い] 新型コロナウイルスの感染拡大を防止し、美術館を安全にご利用いただくため、ご来館の際には手指消毒・咳エチケットのご協力をお願いいたします。また、発熱・咳・くしゃみ等の風邪の症状がある方は、ご来館をお控えください。